

令和7年度

シラバス

食品システム科 (S)

3年4組

福島県立小名浜海星高等学校

< 観点別評価・評定の算出方法 >

- (1) ①～③の観点別評価は、それぞれを100点満点とし、以下の到達度に応じて観点別評価をします。

観点別の点数	評価
72.6 ～ 100	A
37.6 ～ 72.5	B
0 ～ 37.5	C

- (2) ①～③の観点別の点数を合計(300点満点)し、3で割った点数が評点となり、5段階評価に使用されます(小数点以下四捨五入)。

- (3) 以下の表に基づいて評点から評定を算出します。評定「1」は欠点となり、単位不認定となります。

評点	評定
80 ～ 100	5
65 ～ 79	4
45 ～ 64	3
30 ～ 44	2
0 ～ 29	1

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2
対象クラス		S3年4組		授業担当者	中隅利恵・浅川康夫

1 授業の内容と目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	60%	40%	定期考査、小テスト、授業態度
②	思考・判断・表現	60%	40%	定期考査、小テスト、授業態度、提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	小テスト、授業態度、提出物

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2
対象クラス		S3年4組		授業担当者	深谷 恵子

1 授業の内容と目標

- (1) 近現代の歴史の展開を日本と様々な地域の関連性や地理的条件と関連付けて考察する。
- (2) 国家間の対立がおこる過程と経過を多面的・多角的に考察し、国際関係の変化を理解する。
- (3) 戦後の復興の過程と現代の国際社会の諸課題について学び、課題解決に向けて自ら探究する。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	70%	30%	定期考査・単元テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	70%	30%	定期考査・単元テスト・授業態度・提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	定期考査・単元テスト・授業態度・提出物

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	2
対象クラス	S 3 年 4 組		授業担当者	安島 久美子	

1 授業の内容と目標

- (1) 指数関数と対数関数：指数を整数へ広げた指数法則を理解したり、桁数に関係する対数について学びます。計算ができ、グラフがかけ、方程式・不等式が解けることが目標です。
- (2) 微分：微分係数や導関数の意味について理解し、関数の増減、極大・極小を調べたり、グラフをかいたりできるようにします。
- (3) 積分：積分について学び、直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積の求め方について学びます。面積の計算ができるようになることが目標です。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評 価 項 目
		考査	平常点	
①	知識・技能	80%	20%	定期考査、小テスト、ワークシート
②	思考・判断・表現	70%	30%	定期考査、小テスト、ワークシート
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	ノート、行動観察、発表、自己評価

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3
対象クラス	S 3 年 4 組		授業担当者	蛭田・若松	

1 授業の内容と目標

陸上競技、体づくり運動、球技、水泳、ダンスなど様々な運動を通して楽しさや喜びを味わう授業です。次のことを目標とします。

- (1) 約束事やルールを守る態度の確立
- (2) 健康・安全に気をつけて、仲間と協力して、自己の役割を果たす態度を育てる
- (3) 体の調子を整え、体力の向上を図る
- (4) 生涯を通して継続的に運動ができる資質を養う

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における 評価配分		評 価 項 目
		考査	平常点	
①	知識・技能	0%	100%	学習カード、スキルテスト、授業態度
②	思考・判断・表現	0%	100%	学習カード、授業態度
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	学習カード、授業態度

教科	外国語	科目	英語コミュニケーション II	単位数	2
対象クラス		S 3 年 4 組		授業担当者	山内洋平

1 授業の内容と目標

- (1) 新しい表現を学び、まとまった長さの英文を読んで（聞いて）内容を理解し、英語で自分の考えや気持ちを英語で話したり書いたりすることができる。
- (2) 新たに学んだ表現を用い、英語で自分の考えや気持ちを相手に伝えるとともに、相手の考えや気持ちを理解した上でやりとりができる。
- (3) 世界中の様々な事象や人物に関する英文に触れた上で、自分自身の考えや住んでいる地域の特性と関連付け、学んだ表現を用いて自分自身や自分の住んでいる地域について英語で発信できる。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	80%	20%	定期考査・小テスト・授業態度
②	思考・判断・表現	80%	20%	定期考査・小テスト・授業態度・提出物
③	主体的に学習に取り組む態度	20%	80%	定期考査・小テスト・授業態度・提出物

教科	水産	科目	課題研究【調理】	単位数	4
対象クラス		S 3 年 4 組		授業担当者	高木慎平・鈴木悠夏

1 授業の内容と目標

- (1) 食生活の多様化や健康への影響を学ぶ
- (2) 食品に関する成分や機能を理解する
- (3) 提出物のノート【一冊のノート※ルーズリーフ使用の場合はファイルに閉じ、過去の板書内容が残っている状態での提出。学期ごとの範囲分だけでは10割の評価とはしない】とファイルを整理し、期日までに提出する。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点		各観点における評価配分		評価項目
		考査	平常点	
①	知識・技能	50%	50%	定期考査・小テスト・授業中の発言など
②	思考・判断・表現	50%	50%	定期考査・小テスト・授業中の発言など
③	主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・提出物

教科	水産	科目	課題研究（食品表示）	単位数	4
対象クラス	S 3 年 4 組		授業担当者	清水 弥	

1 授業の内容と目標

- (1) 食品製造で必ず必要とされる食品表示に関する基礎について学ぶ。
- (2) 食品の表示を適切に行う能力と態度を養うことを目標とする。
- (3) 教科書による座学が中心でノートを必ず準備する（ルーズリーフ不可）。
ノートは自身がわかりやすく振り返ることができるように書くことを心掛ける。
くだらない落書きがあつたり必要以上にカラフルなノートは受け付けない。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点	各観点における 評価配分		評 価 項 目
	考査	平常点	
① 知識・技能	80% (100%)	20% (0%)	定期考査 平常時の試験・レポート等
② 思考・判断・表現	20%	80%	定期考査 平常時の試験・レポート等
③ 主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	事前準備 ノート レポート等

教科	水産	科目	課題研究（簿記）	単位数	4
対象クラス	S 3 年 4 組		授業担当者	根本由紀枝	

1 授業の内容と目標

- (1) 簿記の意味や役割、目的などを理解し、基本的な取引の記帳から決算までの手続きを習得します。
- (2) 商品売買業で日常生じる取引の記帳と、商品の売買損益の計算、貸し倒れの見積もり、固定資産の減価償却などの決算整理を含んだ手続きと記帳の方法について習得し、自ら考えて解決する力を身に付けます。
- (3) 帳簿・伝票と記帳の効率化等について、自ら課題に取り組み積極的に解決しようとする態度を育成します。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点	各観点における 評価配分		評 価 項 目
	考査	平常点	
① 知識・技能	80%	20%	定期考査・小テスト・授業態度
② 思考・判断・表現	70%	30%	定期考査・小テスト・授業態度・提出物
③ 主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・提出物

教科	水産	科目	課題研究・総合実習	単位数	2・2
対象クラス	S3年4組	授業担当者	根本由紀枝、鈴木悠夏、齋藤道明、齋藤昌太		

1 授業の内容と目標

(1) 食品分析・食品保全・食品環境・食品物性

食品の呈味試験や魚肉の鮮度判定と水分活性、汚染浄化、粘度測定について、実験・実習を通して内容と方法を理解し、技術を習得します。

(2) 水産物の調理・加工

様々な魚介類の調理・加工に取り組み、基本的な調理の仕方を理解し技術を身に付けます。

(3) レシピの考案・開発

実習製品や県内食材を利用したオリジナルレシピの考案や商品開発に取り組み、水産物を利用した料理への興味・関心を深め、協働的に活動する態度を養います。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点	各観点における評価配分		評価項目
	考査	平常点	
① 知識・技能	0%	100%	実技試験・授業態度
② 思考・判断・表現	0%	100%	実技試験・授業態度・提出物
③ 主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	実技試験・授業態度・提出物

教科	水産	科目	食品製造	単位数	2
対象クラス	S3年4組	授業担当者	高木慎平		

1 授業の内容と目標

(1) 食品製造についての知識や技術を理解する

(2) 食品や製造に関する課題を発見し、それを解決するために必要なことを考えられるようにする

(3) 提出物のノート【一冊のノート、ルーズリーフはファイルにとじて】を整理し、期日までに提出する。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点	各観点における評価配分		評価項目
	考査	平常点	
① 知識・技能	50%	50%	定期考査・小テスト・授業中の発言など
② 思考・判断・表現	50%	50%	定期考査・小テスト・授業中の発言など
③ 主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・提出物

教科	水産	科目	食品管理	単位数	2
対象クラス	S 3 年 4 組		授業担当者	鈴木 悠夏	

1 授業の内容と目標

- (1) 日本における食品管理の歴史を踏まえ、食品の生産から消費に至るまでの全ての過程において必要となる食品管理について食品の成分から微生物まで幅広く学びます。
- (2) 微生物性食中毒の分類や発生原因、発生状況と予防法などの食品管理に関する基礎的な知識と技術を身に付けます。
- (3) 食品技能検定第3類の合格を目指して、問題演習も踏まえながら学習を進めていきます。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点	各観点における評価配分		評価項目
	考査	平常点	
① 知識・技能	70%	30%	定期考査 平常時の試験・レポート等
② 思考・判断・表現	30%	70%	定期考査 平常時の試験・レポート等
③ 主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	事前準備 ノート レポート等

教科	水産	科目	食品管理【実験】	単位数	3
対象クラス	S 3 年 4 組		授業担当者	高木慎平	

1 授業の内容と目標

- (1) 食品管理実験についての知識や技術を理解する
- (2) 食品管理実験における心得と安全対策を理解する
- (3) 食品管理実験に使用する器具の取り扱いを理解する

※授業は毎回タブレットを使用します。忘れた場合は当日のレポート等が提出できなくなり評価ができません。準備物は授業態度にも含まれますので必ず持参すること。

2 評価の観点

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点	各観点における評価配分		評価項目
	考査	平常点	
① 知識・技能	0%	100%	実験態度・実技試験・小テスト
② 思考・判断・表現	0%	100%	実験態度・実技試験・小テスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	0%	100%	授業態度・提出物

教科	水産	科目	水産流通	単位数	3
対象クラス	S 3 年 4 組		授業担当者	清水 弥	

1 授業の内容と目標

- (1) 水産食品の流通に関する基礎について学ぶ。
- (2) 水産食品の流通を適切に行う能力と態度を養うことを目標とする。
- (3) 教科書による座学が中心でノートを必ず準備する（ルーズリーフ不可）。
 ノートは自身がわかりやすく振り返ることができるように書くことを心掛ける。
 くだらない落書きがあったり必要以上にカラフルなノートは受け付けない。

2 評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点を均等に評価します。

評価の観点	各観点における 評価配分		評 価 項 目
	考査	平常点	
① 知識・技能	80% (100%)	20% (0%)	定期考査 平常時の試験・レポート等
② 思考・判断・表現	20%	80%	定期考査 平常時の試験・レポート等
③ 主体的に学習に 取り組む態度	0%	100%	事前準備 ノート レポート等